

「みんなできつろう 市民トーク」開催結果（相良地区）

1 日時等

- (1) 日 時 6月27日（水） 午後7時00分～午後8時20分
- (2) 会 場 牧之原市史料館
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問票
- (4) 参加人数 113人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:55-20:15）

(1) 海岸保安林に接する遊歩道整備について（相良区）

市は東京五輪「サーフィン競技」における米国・中国ホストタウンになりました。さがらサンビーチからは伊豆の連山そして富士山を望む明るく輝く地でありました。が、最近では暗いイメージが払拭できない状態が続いています。そこで、遊歩道整備（草刈）等により環境劣化の改善を願いたい。

【回答：横山副市長】

相良サンビーチの保安林の管理については、年間を通じてシルバー人材センターに草刈りや清掃をお願いしています。しかしながら、ご意見をいただいた箇所については、保安林の指定はしていますが、松が植栽されていないため、作業範囲から漏れていたと思われます。

まずは現場の確認をし、一度草刈りを行い、歩行者の通行ができるようにします。今後の管理については、区の皆さんと協議して、管理方法の検討をさせていただきます。

(2) 地域の小公園の整備について（波津第3ブロック）

- ①トイレの洋式化 ②サビの改修（ベンチ、遊具）
- 上記整備を希望します。

【回答：横山副市長】

公園の維持管理については、現在作成している公園の修繕、改修計画に基づき行う予定で、波津公園、浜田公園については平成 33 年、34 年にトイレの水洗化、洋式化を計画しています。

また、公園遊具については、皆さんに安全に利用していただけるよう、年に 4 回安全点検をしています。波津公園の遊具については、4 月に行った安全点検で修繕が必要とのものでしたので、5 月に修繕し、現在は安心して利用できる状態になっています。各公園の遊具についても計画的に修繕を行う予定です。

(3) 大原市営住宅の問題について（波津第 4 ブロック）

市営住宅が老朽化しています。生活弱者をそのような住宅に住まわせていることに心が痛みます。行政としてどのように考えているのでしょうか。

【回答：横山副市長】

大原団地などの木造住宅（6 団地）については、耐震性が無いことから耐震補強を実施するのではなく、住宅の老朽化を含め入居者の安全性を鑑みて、本人の意向を確認しながら、他の団地や民間アパートへの転居を促進していきます。その取り掛かりとして、転居に関する入居者アンケートを実施しましたが、現地の立地条件が良好なこと、住み慣れた場所であること、引越しの手間などの理由により、転居に対し躊躇している旨の回答でありました。

今後も引き続き市の主旨をご理解いただくため、入居者個別に確認させていただき、安心、安全な場所への転居を促進していきたいと考えています。

(4) 地震及び原子力災害時における広域避難について（波津第 1 ブロック）

私たちの自治区の避難先として、避難地①として山梨県、避難地②として長野県となっておりますが、仮に親戚、知人を頼りに①、②以外の県に避難をした場合に、①、②と同様な待遇を受けられるのでしょうか。

例えば物資の供給、ヨウ素剤の配付、一時金、助成金。

【回答：近藤防災監】

原子力災害の発生初期では、食糧等の生活物資は、予め指定された県外の広域避難先の避難所や避難経由所で供給されます。一般的に、避難所では避難者名簿が作成され、名簿情報に基づいた運営と支援が行われます。避難所の近傍で容易に取りに来ることができる方であれば、その避難所に登録することによって生活物資の提供をすることも可能と考えます。他方で自主的な避難先となる親戚や知人宅が他県というように、避難所から距離的に離れていて、取りに来ることができないような場合には、物資の供給を受けることが難しくなってしまいます。また、避難所以外に避難した場合は、被災者向けの物資供給に関

する情報を得ることが難しくなることも考えられます。

安定ヨウ素剤については、静岡県内の予め指定された避難経路上に、例えば、経路上には放射線に汚染されていないかを検査する場所ができるのですが、その場所か、又はそれ以前のより適切な場所が設定できれば、その場所で緊急時の配布が行われますので、避難の際に受け取ることができます。

一時金、助成金については、避難先が山梨県や長野県以外であることを理由に補償の対象外になることはないと思われませんが、具体的な補償内容については、被災された方の個々の状況によって異なるものと考えています。

いずれにせよ、万一の原子力災害の発生時には、被災者の安全の確保と生活を守れるよう努めていきます。

(5) 避難タワー下の遊び場の確保について（福岡区）

避難タワーが整備に伴い、地面には人工芝などを敷き、地区内外から家族や子どもたちが集まり、遊び場として活用しており、公園のない住宅地に憩いの場を創設している。

しかしながらボール遊びなどにより、周辺を取り巻くフェンスが破損するなど支障が生じている。立ち入りを禁止することもできるが、せっかく有効利用を目的に公園化したのであることから、できればフェンス内側にネットを張るなどの対策を講ずるなどして安心して遊べる環境を提供して欲しい。

【回答：飯塚建設部長】

津波避難タワーは大規模地震による津波が発生した際に、地域の皆さんが避難する場所であり、福岡区のタワー下の人工芝については、隣接することも園の園児が避難する際に転倒して、けがをする危険性があることから設置したものです。

ここを近隣住民の皆さんの憩いの場として利用いただくことは問題なく、市としては子供向けの看板を四方に設置し、「津波避難タワーはみんなの命を守る施設であるため大切に使ってほしいこと。ボールをフェンスに当てて壊さないこと。」を諭す内容で、注意喚起を図っています。

なお、地震発生時に避難の障害になりかねないものは、設置しないことが基本であり、ネットについてもそうした心配が懸念されることです。

各避難タワーについては、関係する区と管理に関する協定を結んでいますので、この中で、ネットの設置を含む利活用について、区としての対応をご検討いただき、市へご協議いただければと思います。

(6) 側溝清掃作業について（波津第2ブロック）

ゲリラ豪雨、生活用水で流される砂礫が堆積し、溢れる場所も見受けられません。個人はもちろん各町内会での対応も高齢化が進む中ブロックでの計画的な

清掃を考えておりますが、廃土の処理が難しく、市として（年2～3回位）の対応が可能でしょうか。

【回答：飯塚建設部長】

地域の側溝清掃で発生した残土の処理について、市では残土の処分を民間の処分場へ委託しています。受入先の残土処分場が対応できるかどうかの問題となりますので、計画される場合は、建設管理課へご相談ください。

（7） 中心市街地活性化について（福岡区）

平成10年に児童数1,000人余だった相良小学校も、現在500人まで減少し、更に昨年度の学区の出生者数はついに50人を切り、数年後には学年1～2クラスの小さな学校になります。気が付くと若者も減り、空き家も目立ち、旧相良町の中心市街地であったこの地区の人口減少が急速に進んでいることを実感します。地方の人口減少はやむを得ないものの、中心市街地の活力が失われては過疎化に拍車がかかり、このまちに住もうとする人もなくなってしまいます。

若者の流出を防止し、市街地を再生するためには、若者ニーズに合った生活関連施設や図書館などの交流の場の存在が不可欠であり、更に交通ネットワークの充実があわさることで魅力ある市街地の形成が実現できると考えます。

また、実現に向けては、夢で終わらせないような的確なニーズの把握や集客の分析、施設の構成など、専門家と産官学の連携を進めて欲しい。今後、まちづくり構想について市はどう取り組むのか、そのスケジュールや内容を教えてください。

【回答：杉本市長】

中心市街地の活性化、沿岸部の活性化は、牧之原市にとって欠くことのできない取り組みです。先ほど、お話をさせていただいた少子高齢化、特に若い世代の人口減少という課題を捉え、交流人口を増やし、エリア価値を向上させるなど、市外の若者や民間の方々と連携し取り組んでいかなければなりません。

市の将来を見据え、平成31年度から平成34年度の取組方針を定める「総合計画後期基本計画」の策定に現在取り組んでいるところです。この中で、市として特に力を入れる各分野の横断的な取り組みについて、検討しています。

子育て支援については引き続き取り組み、他にも空き店舗を活用したり、市外から人を呼び込んだり、そのための高台開発や田沼意次侯生誕300年記念事業、サーフィンの体験や、御前崎港へのクルーズ船の誘致など、牧之原市の気候や自然、文化、食材などを活用し、その担い手・プレイヤーの発掘を含め、いろいろな分野の方々と連携しながら取り組んでいきます。

このまちに愛着を持ってもらい、また来たいと思う取り組みや、お金が市内に循環し儲かる仕組みの構築も重要です。

市の活性化には、これまでのように単に市が事業を行うだけでなく、官民、あるいは産官学で連携していくことも必要ですので、皆様にもご理解ご協力をお願いします。

(8) 絆づくり事業の補助について（波津区）

絆づくり事業については、現在 10 地区で一律 30 万円の補助が市からありますが、相良地区は他地区に比べ人口も多く、地区の活動・行事が他地区と比較して区民の満足感が得られにくく、運営面でも展開方法に限りがある。今後は人口割での補助金の検討をお願いしたい。

相良 10,025 人、片浜 1,100 人、菅ヶ谷 2,069 人、萩間 3,334 人、地頭方 5,656 人、静波 5,534 人、細江 7,302 人、川崎 3,204 人、勝間田 2,602 人、坂部 2,341 人、牧之原（相良） 1,208 人、牧之原（榛原） 1,309 人

負担支払い費用や、割当ての市協力人員の選出は多いのに、一律の金額では平等のようですが、不平等を感じ疑問が生じます。例えば 10 区に 10 万円を一律で、あとは戸数及び人口での人員割りで補助金の支給にしたらどうかと思います。国か県で 1 件の絆づくり事業へ 30 万円の補助と聞いていますが、全体の申請後、市で按分をしたら良いと思います。

【回答：杉本市長】

地域の絆づくり事業は、地域が主体となって「自分たちの地域を良くしていこう、自分たちの暮らしをもっと楽しく、暮らしやすい地域にしていこう」という想いを、自分たちの地区で少しでも実現できるよう取り組むもので、平成 23 年度に、自治会地区長会から提案されたことをきっかけにスタートしました。

平成 29 年度においては、相良地区では防災マップづくり、萩間地区では耕作放棄地でのそば栽培、片浜地区では旧駐在所の活用など、各地区で自主的な活動に取り組まれています。こうした地区の取り組みに対し、市の支援として一地区の上限金額を 30 万円と定め、補助金の交付をしているもので、財源として市町村振興協会からの助成金を活用しています。

絆づくり事業は、市が皆さんにお願いし取り組んでいただく趣旨の事業とは異なるものであり、人口規模というよりもその活動内容などに即して支援しているものです。しかしながら、これまで以上に皆さんが活動しやすくなるよう、事業の内容や支援方法などについて、今後、地区長会において協議したいと考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

(9) 旧相良公民館跡地利用について（須々木区）

閉館されている相良公民館については、相良総合センターい〜らに隣接して新設される方向で進んでいますが、現存する相良公民館の建物の撤去計画及び

その後の跡地利用に関して、市当局の基本的な考え方をお聞かせいただきたい。

須々木区としては、相良公民館は元須々木小学校跡地の思い出とともに区のシンボリックな存在であり、他地区からの市民の集まりが少なからず賑わいを作り出し、区の活性化に資していました。

また、区民にとっても公民館活動の拠点として区民館の機能の一部を相良公民館に頼っていた一面もあり、現在の相良公民館を失うことは物心両面において大きな痛手となっています。

さらには、閉館後放置され荒れ果てていく相良公民館を毎日のように見ながら生活する区民の心情を思うと、現状のまま長らく放置することは良いことではありません。取り壊すにしても大きな予算を伴うことも理解できますが、相良公民館の新設が決まった以上、できるだけ早期に現状の改善に向けた当局の姿勢をお示しいただきたいと思えます。

また、その際には須々木区民の心の拠り所でもあった、旧須々木小学校や旧相良中央公民館のように区民の絆をより深めるため、新たな利用法を検討してほしいと思えます。

【回答：杉本市長】

須々木区民の皆様にとって、元須々木小学校跡地の思い出とともに区のシンボリックな存在であった相良公民館は、現在閉館とさせていただいています。

しかしながら、近隣からも不安の声があると聞いておりますし、今回のご質問にもあります区民の心情も鑑みまして、平成31年度に取り壊しの設計委託を実施し、平成32年度に取り壊し工事を実施する予定で進めていきたいと考えています。なお、跡地利用の計画策定については、地元須々木区にも相談させていただきながら、今年度から進めていきたいと考えています。

(10) 萩間川左岸側の道路整備（大沢区）

天の川大江線から萩間川に向かった先の橋の建設が進んでおらず、土手沿いの道路が渋滞している。現在、萩間川左岸側の土手の拡張工事が進んでいるので、そこを道路として整備することは考えられないか。

(11) 大江地区道路整備について（大江区）

大江地内の通称：平田海老江線や、ミルキーウェイから大江地内に入る橋の建設などの計画が一向に進まないため、道幅が狭い現道交通での事故や学童通学に支障が出ている。計画の進行状況の説明や完成目標時期等の説明を求めるとともに、事故が起こる前に、計画を推進して欲しい。

【回答：杉本市長】

質問10と11、大沢区と大江区からは、同じ個所の質問が出ていますので、

まとめてお答えさせていただきます。

まず、拡幅改修している萩間川の左岸（大江田んぼ）側の河川管理用道路を市道として舗装整備できないか？というご質問ですが、現在、その計画はありません。

次に橋の事業ですが、幅 17m、延長 73m（2 径間）の大規模な橋りょう工事に加え、左右岸とも橋の厚み分で 2 m 程高く道路擦り付けが生じ、周辺の皆さんや右岸（大沢）側の現道交通に大きな影響が生じ、対応が必要になります。

また、左岸（大江）側は地盤が悪く、大規模な地盤改良が必要になるなど、多額の費用が見込まれます。まずは橋を渡し、大江いのち山前の都市計画道路「川向御天所線」を結びたいと考えていますが、工事の実施については、萩間川の右岸側改修に合わせ検討していきます。

3 個人からの質問票による意見・質問（20:15-20:20）

- (1) 須々木区には、避難路はあるが避難タワーはない。旧相良公民館を避難タワーに改築する方法はないか。

【回答：杉本市長】

旧相良公民館については耐震性がないことから、使用を止めて他の所に建て替えをするということで、取り壊しをすると答弁しました。

津波防災対策については、地域の皆さんと合意形成をして進めてきたところです。基本的には津波浸水区域の境から海側へ 500m の区域については、山側の浸水区域以外の避難可能エリアとして津波避難施設は整備をしないという方針で、地域の方々と話をしながら避難路の整備を進めてきたものですので、ご理解をいただきたいと思います。

- (2) リニア新幹線について市長の考えは（環境・水問題）

【回答：杉本市長】

最近、新聞紙上などで静岡市が合意をしたという報道があり、また今日の報道では静岡市長が合意に関して撤回するという記事が出ていました。牧之原市としてもリニア新幹線の工事によって水が失われると非常に困ります。

牧之原市でも上水道、工業用水、農業用水など、大井川の水が命です。そうした中で牧之原市は大井川流域市町と連携して取り組んでいます。工事によって発生する水は、その全量を大井川に戻すよう、静岡県とともに J R 東海と交渉しているところですので、そうした考えのもとで対応していきます。J R は何をもって全量か分からないと言いますが、使うのに必要な水量を、困らないように川に戻すということで、県・関係市町と話し合いが平行線状態になって

います。市としては、県・関係市町と歩調を合わせた連携をし、取り組んでいきます。

(3) 国道 150 号 B P の交差点について

細江の現国道 150 号 B P の交差点について、形状を相良地頭方港湾道路・国道 150 号のような Y 字交差点に改良できないか。また現国道 150 号吉田側から相良側に向かっての信号表示が分かりにくい。道路看板もない。

【回答：杉本市長】

4 月に開通した国道 150 号 B P の細江交差点ですが、これまで警察署方面へ向かう方は、以前の 150 号を通ることになります。その交差点の形状が非常に悪く、通りにくいという質問です。これを現 150 号 B P の相良地頭方の港湾道路の Y 字交差点のように改良できないか。現国道の吉田側から相良側に向かうときの信号表示が非常に分かりにくい。道路看板もないということです。

先日、島田土木事務所と円卓会議で意見交換をしました。こうしたご意見が非常に多いので、私の方から直々に土木の所長に対して今あった質問のとおり、意見させていただきました。大型看板の設置や信号の見やすい様に、交差点の形状をもう少しスムーズに旧警察署方面に入れられないかなど、要望しました。

島田土木でも、市の意見を尊重して、これから改良あるいは看板設置などに取り組んでいくとのこと。今後も引き続き土木と協議をしながら、改善に努めます。